

**第2回佐賀県西部広域環境組合  
施設整備検討部会会議録**



平成21年 7月25日 14:00～16:00

佐賀県西部広域環境組合

第2回佐賀県西部広域環境組合施設整備検討部会			
日 時	平成21年 7月25日(土) 14:00~16:00		
場 所	武雄市役所 3階会議室		
部 会 員	区 分	氏 名	出 欠
	学識経験者	小野 隆弘	出
	学識経験者	平尾 実	出
	学識経験者	荒巻 康博	欠
	学識経験者	伊藤 洋	出
	学識経験者	中山 裕文	出
	構成市町担当課	織田 清弘	出
	構成市町担当課	伊藤 芳弘	出
	構成市町担当課	亀井 初男	欠
	構成市町担当課	池田 博幸	出
	構成市町担当課	百武 孝	出
	構成市町担当課	千々岩 正博	出
	構成市町担当課	西村 英樹	出
	構成市町担当課	小森 九州男	出
	構成市町担当課	土井 秀文	欠
	域内既存施設担当職員等	力武 岩夫	出
	域内既存施設担当職員等	福田 康成	出
域内既存施設担当職員等	棚町 信也	出	

佐賀県西部広域環境組合	事務局長	井関 勝志
	事業係長	加々良 俊文
	事業係主査	古賀 正太
財団法人日本環境衛生センター西 日本支局	環境工学部部長	岩永 宏平
	環境工学部建設技術課課長代理	古保里 俊夫
八千代エンジニアリング株式会社	環境施設部技術第二課課長	松本 良二
	環境施設部技術第一課主幹	小林 栄己
	環境施設部技術第一課主任	清野 昭則

## 第2回佐賀県西部広域環境組合施設整備検討部会

平成21年 7月25日(土)  
午後2時00分 開会

### 【1】 開会

### 【2】 協議・報告事項

- (1) 第1回施設整備検討部会での主な指摘事項と対応
- (2) 処理システム・処理方式の選定方法
- (3) 処理システム・処理方式の一次選定
- (4) 処理システム・処理方式の二次選定に向けたプラントメーカーへのアンケート調査(案)

### 【3】 その他

### 【4】 閉会

---

### 【1】 開会

○事務局長より開会

○施設整備検討部会長より挨拶

### 【2】 協議・報告事項

- (1) 第1回施設整備検討部会での主な指摘事項と対応

[事務局]

第1回施設整備検討部会での主な指摘事項と対応及び今後のスケジュールについて、説明を行った。

[質 疑]

特になし

- (2) 処理システム・処理方式の選定方法

[事務局]

処理システム・処理方式の選定方法について、説明を行った。

[質 疑]

特になし。

[結 論 (確認事項)]

**●処理システム・処理方式の選定方法については、了承された。**

(3) 処理システム・処理方式の一次選定

[事務局]

処理システム・処理方式の一次選定について、説明を行った。

[質 疑]

(部会員) 一次選定結果のまとめ表で、燃料化システムの中のRDF方式と炭化方式が一括りで表記されている。スラグ化システムの中の焼却+灰溶融方式とガス化溶融方式についても同様である。結果は同じかもしれないが方式が異なるので区分して表記するべきではないか。

(事務局) 環境省交付金制度の中で同じような位置付けであったため一括りにしていたが、ご指摘を踏まえ、区分して表記し作成する。

(部会長) 一次選定で検討を終了させるものについては、二次選定で議論しないので慎重に協議したい。

(部会員) RDF方式は難しいかもしれないが、炭化方式は可能性があるのではないか。プラントの技術はある程度確立されていると考える。

(部会員) 炭化方式は、プラントメーカーの撤退があっており、難しい技術であると考え。われわれが想定している規模の実績がなく、現状ある実績のものをスケールアップすると考えた場合、技術的に難しいのではないか。また、炭化物の洗浄が必要であり処理水等の問題もある。廃棄物処理施設は実績

が重要である。他の自治体で実績が少ない技術を採用してうまくいっていないところもあり、安定したごみ処理を考える場合はある程度実績のあるシステムとすべきである。

(部会員) 下水汚泥を炭化する施設はある程度の規模の施設がある。

(部会員) 下水汚泥のような性状が安定したものと一般廃棄物では異なる。下水汚泥を炭化する施設ではある程度の実績はあるが、一般廃棄物ではない。

(部会員) 炭化方式の説明の中で、塩素除去が必要とあるが、これは焼却灰のセメント原料化でも同じではないか。

(事務局) 塩素の問題は両方のシステムについて重要であるが、焼却灰のセメント原料化の方が許容範囲が広いと考える。焼却灰のセメント原料化は、受け入れ先側で除去する程度で対応可能であるが、炭化物を発電に利用する場合は、発電設備に悪影響を及ぼす可能性が高いので受け入れ先側から高い質の炭化物を求められているのが現状である。

(部会員) 炭化方式について、他に留意することの説明をしていただきたい。

(事務局) アンケートを行った結果、P F I的手法を要望されている点である。事業方式については、P F I的手法を採用しないこととしている。また、質の高い炭化物を求められていることもアンケート調査からわかった。

(部会員) 一次選定の評価項目の中で外部受け入れ先の確保について考察をしているが、「最終生成物の受け入れ先の確保」等の表現にした方がよいのではないか。また、埋立処分システムとスラグ化システムについては評価が記載されていないが、評価をすべきである。すべての処理システムについて評価を記載し、整理しておいていただきたい。

(事務局) 了解した。

(部会員) スラグの引き取り先に関してアンケート調査が必要ではないか。

(事務局) 組合の構成市町の土木工事等での砂等の土木資材利用料を調査し、その量

と想定される生成スラグ量を比較して利用可能性を検討する。

〔結 論〕

- 一次選定を行った結果、埋立処分システム、セメント原料化システム、スラグ化システムの3システムについて、二次選定を行うこととした。
- 燃料化システム(RDF方式、炭化方式)は一次選定で評価を終了し、二次選定を行わないこととした。
- 一次選定結果の内容については問題ないが、説明の補足、表現の修正を行うこととした。

(4) 処理システム・処理方式の二次選定に向けたプラントメーカーへのアンケート調査 (案)

〔事務局〕

処理システム・処理方式の二次選定に向けたプラントメーカーへのアンケート調査(案)について、説明を行った。

〔質 疑〕

(部会員) アンケートの回答期限が非常に短く、また、無償でお願いすることになるので、より精度の高い回答を得るため、内容を絞り、処理方式選定に必要な情報のみアンケートを行った方がよい。

(事務局) 炉数構成を2炉と3炉の2ケース提案していただくことにしているが、一般的な2炉でアンケートを行うこととする。また、調査票以外に提出していただくようにしていた資料についても、処理方式選定に必要な最低限の情報を得るようにする。

(部会員) 公害防止基準値はどのように設定したのか。実際に発注する際もこの値とするのか。

(事務局) 国の基準値や他施設の基準値等を勘案して設定した。今回の設定値は、ア

ンケート調査のための暫定的なもので、公害防止基準値については、次回以降の検討部会で協議していただく予定である。

(部会員) その旨の記載をアンケート用紙の中で記載しておいた方がよいのではない  
か。

(事務局) 了解した。

(部会員) 処理方式によっては、複数の回答があるものもあるため、データの取り扱い（平均値とするのか、最大値と最小値を除いた平均値とするのか等）には留意してまとめていただきたい。

(事務局) 了解した。

(部会員) 二次選定を行う際は、エネルギー回収推進施設だけでなく、最終処分場も含めたトータルシステムで、環境保全性、安定性・安全性、経済性の評価を行うということによいか。

(事務局) そうである。

(部会員) 地盤等の条件が提示されていないので提示した方がよいのではないか。

(事務局) 追加する。

(事務局) アンケート調査については、いただいた意見を踏まえ、修正を事務局に一任いただき、発送するということによいか。

(部会員) 了解した。

[結 論]

**●アンケート調査は、処理方式選定に必要な最低限のものとする。**

**●アンケート調査は、いただいた意見を踏まえ、修正を事務局に一任し、発送するものとする。**

【3】その他

●第2回ごみ処理施設建設委員会について

第1回、第2回施設整備検討部会の協議内容・決定事項について、8月7日に行う予定であるごみ処理施設建設委員会に報告を行う。報告に際しての資料の作成と委員会への資料の説明等は事務局サイドに一任いただいた。

#### 【4】閉会